

海とにんげん & SOS

2024.12.23

Vol.47



「塩ワカメ」づくり 答志島和具浦漁港

特別展「答志島く古代から続く海民たちの島」開催

写真は、鳥羽市答志島和具浦漁港の「塩ワカメ」づくりの風景です。毎年2月から4月にかけて数十基の塩ワカメづくりのカマが並ぶ風景は冬の風物詩になっており、あたり一面に漂う「かおり」とともに環境省の「かおり風景百選」に選ばれています。

答志島は、鳥羽湾に浮かぶ有人離島の中で一番大きな島で、周囲約26キロの島内には答志、和具、桃取の3つの地区があり、令和5年9月現在、1750人ほどの人々が暮らしています。

答志島の歴史は古く、答志の沖に位置する大筑海（おつくみ）島には縄文時代の貝塚があり、また答志と和具の中間に位置する古墳時代の蟹穴（かにあな）古墳からは、国の重要文化財になっている須恵器などが出土しています。さらに奈良時代の平城宮出土土簡には、答志郷から「堅魚」（かつお）、「多比」（たい）、「貽貝」（いのかい）、「海藻根」（まなかし・めかぶ）、「塩」（しお）など、一方で和具郷から「堅魚」、「鯛」、「貽貝」、「海藻」（にぎめ・わかめ）、「伊祇須」（いぎす）などの記銘がみえ、答志島の海産物が奈良の都に届けられていたことが分かっています。

答志島は、戦国武将・九鬼嘉隆ゆかりの地で、和具地区には嘉隆の「首塚」や「胴塚」があります。そして九鬼の時代に始まったといわれる「寝屋子制度」は、全国でも答志地区だけに残る制度で、中学校を卒業した男子数人が一定の期間「寝屋親」の家で過ごし、その後生涯の兄弟、親子の絆を結びます。

最近見つかった答志地区の古記録によれば、明治41（1908）年から43（1910）年までの3年間、答志の海女たちが櫓漕ぎの船で朝鮮半島まで出稼ぎにいき、事故もなく無事帰ってきたことが分かってきました。

鳥羽市立海の博物館では、12月21日から特別展「答志島く古代から続く海民たちの島」を開催しており、前記した諸情報や当館に保管している漁具類、漁業の古文書の記録や古写真、近年の漁業の実情や島の名所などを紹介・展示しています。

展示解説

2025年1月13日、2

月11日、24日、3月20日

展示期間

の祝日 13時30分から

2025年4月6日（日）



鳥羽市立



海の博物館

公益財団法人 東海水産科学協会

発行日/47号 令和6年12月23日

発行所/〒517-0025

三重県鳥羽市浦村町大吉 1731-68

鳥羽市立 海の博物館・SOS運動本部

TEL 0599 (32) 6006

編集人/平賀 大蔵

印刷所/株式会社アイブレーン

購読料/年間 1500円 季刊発行送料含

郵便振替口座/00830 6 92330

ホームページ/ <http://www.umihaku.com>